

国際化学肥料ニュース (2019年2月)

肥料業界の2019年2月動態

- * 2月に入っても国際市場におけるリン安の不振が続く。その原因はインドの在庫がだぶつき、ブラジルから新しい発注がないため、メーカーと輸出商社の手持ちが増え続けている。

東半球では、インドが2月1週目に計3件12.3万トンDAPを成約した。GSFC社がヨルダンJPMC社から3.3万トン、Kisan社がAries社から5万トン、サウジアラビアMaaden社が4万トン、すべてCFR価格405ドル/トン。パキスタンがモロッコから5万トンDAPを購入し、CFR価格409ドル/トン。

西半球では、Mosaic社が南米に3.5万トンDAPとMAPを輸出し、FOB価格391~395ドル/トン。Inforce社が中国から1.4万トンDAPを購入し、FOB価格390ドル/トン。ロシアPhosAgro社がアルゼンチンに数量不明のMAPを輸出し、CFR価格430ドル/トン以下。

- * 中国税関の速報によれば、2019年1月中国化学肥料輸出量が62.8%増の228万トン、金額が94.6%増の6.29億ドル。一方、化学肥料輸入量が14.1%増の128.1万トン、金額が35.8%増の4.04億ドル、ともに2016年1月以来の最高記録である。その詳細は下記の通りである。

輸出： 尿素が312.8%増の59万トン、DAPが59.6%増の39万トン、硫酸加里が1703.3%増の0.7万トン、NPK化成肥料が1163.1%増の4万トン。塩化加里が330.5%増の3.6万トン。これは2019年から化学肥料の輸出関税を全面撤廃したことで、今まで高い関税により輸出が制限された塩化加里、硫酸加里とNPK化成肥料の輸出が大幅に増えた。

輸入： 塩化加里が14.4%増の108万トン、NPK化成肥料が35.7%増の15万トン。

- * 1月下旬から尿素有の市況が冷え込み、国際価格が下落し続けている。その理由は最大輸入国のインドとパキスタンの尿素入札がなく、アメリカも国内生産量が増え、輸入量が大幅に減少したためである。2月中旬にロシア産尿素有のFOB価格が230~240ドル/トン、中東産尿素有もFOB240~250ドル/トンまで下がり、昨年11月より40~50ドル/トンも低下した。また、消息筋によれば、アメリカの制裁を受けているイランでは尿素有のFOB価格が200ドル/トン前後に売り出している。

- * 2月第3週のりん安市況が低迷し続けている。DAPのCFRインド価格が401~402ドル/トン、CFRパキスタンも407ドル/トンまで下がった。一方、ブラジルは55%粒

状 MAP を CFR335 ドル／トンで購入した。但し、オーストラリアの暴雨でりん安工場が稼働停止したこと、メキシコの国家石油（Pemex）の電力システムの故障でりん安工場が稼働停止したことにより、りん安に対する需要が幾分高まった。

主な取引はヨルダンの JPMC 社がインドに CFR401～402 ドル／トンで 5 万トン DAP を輸出し、パキスタンの Engro 社は中国から CFR407 ドル／トンで DAP を購入し、オーストラリアの Incitec Pivot 社がアメリカから 5 万トン、中国から 15 万トン DAP を緊急輸入する。また、ブラジルは中国から CFR335 ドル／トンで多量の 55%粒状 MAP を輸入する契約をした。

* ロシアの Phosagro 社はロシア国内と東欧に販売網の拡張を加速すると発表した。農家の肥料需要を最大限に満足するように配送センターを現在の 22 か所から 25 か所、在庫能力を 53 万トンに増やす計画である。2018 年 Phosagro 社のロシア国内肥料販売量 293 万トン、東欧を含むと、380 万トンを超えたという。

* 中国窒素肥料工業協会の最新資料によれば、2018 年末現在の窒素肥料メーカー 201 社、前年度より 52 社も減少した。合成アンモニア生産能力 6689 万トン、前年度より 454 万トン減少し、尿素生産能力 6954 万トン、前年度より 322 万トン減少した。長期停止の設備を除くと、尿素有効生産能力 6358 万トンである。

2018 年アンモニア生産量が 0.5%減の 5601 万トン、尿素生産量が 2.4%減の 5207 万トン、尿素輸出量が 46.3%減の 244.7 万トン、国内窒素肥料消費量 3356 万トン（純 N 換算）、窒素肥料全体の売上高が 12.9%増の 2107.6 億人民元（約 314.6 億ドル）、純利益が 471.4%増の 105.5 億人民元（約 15.7 億ドル）、利益率 5%に達し、近年最高の業績という。

大手各社の営業業績

* ヨルダンの APC 社が 2018 年の業績を公表した。加里肥料生産量 243.6 万トン、販売量 243.9 万トン、ともに最高を記録した。加里肥料の粗利率が 35%に達し、純利益が 39%増の 1.76 億ドル、国への上納金が 22%増の 1.0 億ドルである。利益急増の理由は加里肥料の国際価格の上昇と生産コストの下落である。2013 年に比べ、塩化加里の生産コストを 31%も削減した。

* アメリカの Mosaic 社が 2018 年の業績を公表した。りん酸塩部門では、2017 年末に閉鎖したフロリダ州 Plant City 工場の影響で、りん酸塩生産量が 11.6%減の 840 万トン、MAP と DAP 販売量が 25%減の 490 万トン。りん鉱石販売量 140 万トン。加里部門では、2018 年加里肥料生産量が 5.7%増の 920 万トン、販売量 798 万トン、ともに最高

記録である。不採算工場の閉鎖とりん安、加里肥料の価格上昇により、2018年の純利益が前年度の1.07億ドル赤字から4.7億ドルの黒字に転換した。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * ヨルダン APC 社が死海南部に10億ドルを投資し、新たに鹹水蒸発池と塩化加里回収設備を建設すると発表した。また、死海北部に1.8億ドルを投資し、鹹水蒸発池を拡張し、14万トン塩化加里の生産能力を拡大する予定である。これにより、APC社の加里肥料生産能力がさらに100万トン増加される。

- * インドネシアの Pupuk Indonesia 社は2025年までに国内数か所に新たに化成肥料工場を建設し、化成肥料生産能力を540万トンに拡張する計画を発表した。新たに建設する化成肥料の場所は、1. 南スマトラ州の Palembang 市、生産能力20万トン、2. アチェ特別州の Aceh Utara 市、生産能力50万トン、3. 西ジャワ州の Cikampek 市、生産能力50万トン、4. 東カリマンタン州の Bontang 市、生産ライン2本、生産能力100万トン。Palembang 工場はすでに建設中で、Aceh Utara 工場も今年中に建設開始の予定である。

- * オーストラリアの BHP 社はカナダ Saskatchewan 州にある Jansen 加里プロジェクトの第1期工事の進捗が82%に達し、計画通りに2020年に完成すると発表した。当該プロジェクトはすでに27億ドルを投入し、2015年に完成する予定だったが、加里市況の低迷と資金調達の問題で、2020年に延期された過去がある。

その他

- * 2月12日モロッコ政府の発表によれば、モロッコの OCP 社がエチオピア Dire Dawa 化学肥料工場の50%株式を購入することを支持する。当該工場が2016年11月モロッコとエチオピア2政府が契約して建設を開始した化成肥料工場である。エチオピア側が加里原料と天然ガスを提供し、モロッコ側がりん酸を供給する形で化成肥料を生産する。計画では2022年に第1期工事を完成し、生産能力250万トン、2025年までに第2期工事を完成し、生産能力を380万トンに拡大する。総投資額37億ドルと予定する一大プロジェクトである。

エチオピア側が資金調達を難航し、2019年に必要な24億ドルを調達できる見通しがないため、工事を継続できるようにモロッコ側に50%の株式を譲渡する。エチオピア側が引き続き当該工場の50%株式を持ち、工場も Pan Africa Fertilizers 社に改名するという。